



http://www.kameyama-mie.jp/kblog/kawasaki/

コミュニティ・スクール基本理念 一地域の中で、みんなで生き生きと学ぶ川崎っ子の育成

川崎小学校 めざす学校像 ふれあいを通して人と人がつながり、学びにあふれる学校

《 9月児童会目標 時間を守ろう 》



川崎小の子どもたちの 学力は・・・パート②

～4・5年生の「みえスタディ・チェック」の結果から～

本年度も、4・5年生対象に三重県が実施する「みえスタディ・チェック」を4月27日に行いました。その結果の集計・分析についてお知らせします。

みえスタディ・チェックとは・・・

これまでに行われてきた「全国学力・学習状況調査」等の解答状況を分析して三重県教育委員会が作成した問題で、県下の小学校4・5年生が取り組んでいます。前学年までに学習した内容が出題され、前の学年に学習したことの定着度を測るものです。

4年生は算数と国語の2教科で、それぞれ20分で取り組みました。5年生は、算数、国語、理科の3教科で、各40分で取り組みました。



みえスタディ・チェックの結果 【平均正答率(%)】

4年生

5年生

4年生		R5年度	R4年度
国語	川崎小	62.6%	68.6%
	三重県	60.2%	59.3%
4年生		R5年度	R4年度
算数	川崎小	53.9%	53.3%
	三重県	58.8%	53.3%

5年生		R5年度	R4年度
国語	川崎小	35.2%	55.1%
	三重県	51.9%	52.3%
5年生		R5年度	R4年度
算数	川崎小	46.0%	50.6%
	三重県	57.4%	55.8%



- % 三重県の平均正答率を上回ったもの
- % 三重県の平均正答率を下回ったもの

5年生		R5年度	R4年度
理科	川崎小	32.7%	42.3%
	三重県	51.5%	54.1%

R4～5年度の2年間の結果を表にしました。
 三重県の結果と比べてみると、R5年度は、5年生の国語・算数・理科と4年生の算数が県平均を下回っています。特に5年生においては、3教科とも県平均から10ポイント以上下回る結果となりました。
 年度によって、問題や受験者が異なるために一概には比較できませんが、5年生の学力定着に大きな課題が見られます。

～川崎小学校4年生の子どもたちに見られる傾向～

【4年生国語】

- 漢字を書くことや、文の主語を選択する問題は県の正答率を上回っている。
- ▲段落相互の関係に着目しながら、文章の構造を把握し、文章に書かれている順に内容を並び替える。
- ▲話し合いの内容を正確にとらえてまとめる場面で、条件に合わせて必要なことをもれなく記述する。
- ▲理由をつけて説明している文を全て見つける。

【4年生算数】

- 整数のかけ算(105×4 や 23×38)や日常生活に必要な時間の計算については県の平均正答率を上回っている。
- ▲わり算の意味を理解している。
- ▲分数の意味を理解している。
- △「○○は△△の何倍か」を求める。
- ▲めもりを確認しながら棒グラフを正確に読み取る。



～児童が苦手としている▲の問題から～

【4年国語】

小4国語5二の正答率	
川崎小	21.4
三重県	23.4

【正答例】
 外国の人といっしょに折ることや、折ったものを記念にのこすこともでき、色やもようがきれいだ (44字)



【話し合いの一部】 ※前ページと同じものです。

中野 今から、外国の人に、日本のことについて何をしようか話すか話し合います。何をしようか話すかについて、意見のある人はいますか。

西田 わたしは、ゆかたをしようか話すのが良いと思います。理由は、ゆかたは日本の服で、ほかの国では見られないものだからです。

川口 わたしも、ゆかたは日本をしようか話すもの一つだと思います。外国の人が、ゆかたを写真にとっているのを見たことがあるので、ゆかたは、外国の人にも人気があると思います。

北村 わたしは、和食をしようか話すのが良いと思います。和食はとてもおいしいし、健康に良いと聞いたことがあるからです。

小島 たしかに、和食は日本をしようか話すもの一つだと思います。食べ物食べてどんな味なのかを知ってもらうのが大切です。しかし、しようか話す時に和食を食べてもらうのはむずかしいと思います。

中野 ほかに意見のある人はいますか。

高橋 わたしは、折り紙をしようか話すのが良いと思います。折り紙は、外国の人といっしょに折ることができ、折ったものを記念にのこすこともできるからです。

小島 折り紙は、色やもようがきれいなのも良いところだと思います。
 (話し合いが続く)

※答えは、かい答用紙に書きましょう。

○ **【話し合いの一部】** から、折り紙の良いところを全て取り上げること。

○ **【話し合いの一部】** から、三十字以上、五十字以内で書くこと。

○ **【話し合いの一部】** から、折り紙の良いところを全て取り上げること。

○ **【話し合いの一部】** から、三十字以上、五十字以内で書くこと。

○ **【話し合いの一部】** から、折り紙の良いところを全て取り上げること。

○ **【話し合いの一部】** から、三十字以上、五十字以内で書くこと。

○ **【話し合いの一部】** から、折り紙の良いところを全て取り上げること。

○ **【話し合いの一部】** から、三十字以上、五十字以内で書くこと。

○ **【話し合いの一部】** から、折り紙の良いところを全て取り上げること。

○ **【話し合いの一部】** から、三十字以上、五十字以内で書くこと。

4

【文章】 は、どのようなじゆんじよで書かれていますか。次のアからウまでの内よを正しいじゆんじよにならべかえましょう。

ア これから気をつけること

イ 食事の大切さ

ウ 食事以外に気をつけること

【正答】
 イ→ウ→ア

小4国語4二の正答率	
川崎小	51.4
三重県	72.2



【文章】 ※1から6はだん落の番号を表しています。

1 わたしたちの体は食べ物によってつくられます。バランスのとれた食事をする

2 健康にすくすくするためには、食事以外にも気をつける必要があります。

3 それは、運動です。なぜなら、きん肉が発育したり、ほねをしようぶにしたりする

4 すいみんも大切です。なぜなら、体のつかれをとったり、きん肉やほねがつくられたりする

5 毎日を健康にすくすくするためには、食事以外にも、運動をすること、すいみんを

6 最近、外で遊ばず、家の中でゲームをすることが多くなっていました。天気の良い日は、元氣よく運動し、夜は決めた時よく早く寝るなど、きそく正しい一日の生活リズムを作ろうと思いました。

【正答】
 3 と 4

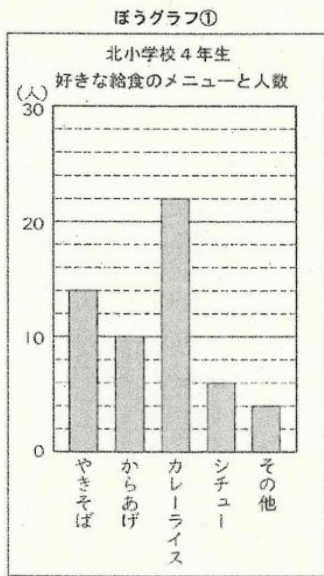
小4国語4一の正答率	
川崎小	32.9
三重県	35.6

4年生国語5二の問題は、話し合いの内容を正確にとらえてまとめることができるかが出題の趣旨です。「条件に合わせて書く」と「字数制限内で書く」ことが必要です。条件は、「全て取り上げること」となっているため、①「外国の人といっしょに折ることができる」②「折ったものを記念に残すことができる」③「色やもようがきれい」の3つを落とさずに書く必要があります。また、「～から」という理由を述べる言い方に合うように答えます。話の内容を理解するのはもちろんのこと、問題文を読んで求められることをつかみ、解答文を作る必要があります。

4一の問題は、理由の書き方の「なぜなら～からです。」という文を見つける必要があります。そして該当するもの「全て」を選ぶ必要があります。この「全て」見つけるところで、つまづく場面が多いようです。4二の問題は、各段落に何が書いてあるのかを捉え、内容のまとめりに小見出しがつけられるような力が必要です。

【4年算数】

7 まことさんたちは、北小学校の4年生全員の好きな給食のメニューを調べ、下のよう**に**棒グラフ①に表しました。



(1) 小学校4年生で、からあげが好きな人とシチューが好きな人とは、どちらのほうが何人多いですか。下の に入る言葉と、 に入る数を書きましょう。

が好きな人のほうが 人多いです。

※かい答は、かい答用紙に書きましょう。

小4算数7(1)の正答率	
川崎小	50.0
三重県	60.9



【正答】
からあげが好きな人のほうが4人多いです。

4年生算数7(1)の問題は、棒グラフの目盛りに着目して、必要な数値や差をよみとる問題です。棒グラフの1目盛りが、2人分を表していることに気づかないと、「2人多いです」と答えてしまいそうです。グラフをよみとる時は、まずは、何を表しているのか、単位は何で、1目盛りはどれだけなのかを確かめてから数値をよみとることが不可欠です。

3 答えが $12 \div 3$ の式でもとめられる問題を、下のアからエまでの中からすべて選びましょう。

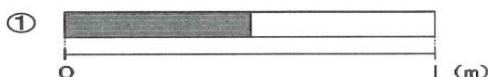
- ア あめが12こあります。何こか食べたなら残りは3こになりました。食べたあめは、何こですか。
- イ 12このあめを同じ数ずつ3人に分けます。あめは1人分何こになりますか。
- ウ 12人の子どもにあめを3こずつ分けます。あめは全部で何こいらいますか。
- エ 12このあめを3こずつふくろにつめます。あめを全部つめるには、ふくろはいくついらいますか。

小4算数3(1)の正答率	
川崎小	14.3
三重県	35.9

【正答】
イ、エ

4 ①、②のテープの、色をぬったところの長さは、それぞれ何mですか。分数で表しましょう。

※かい答は、かい答用紙に書きましょう。



小4算数4②の正答率	
川崎小	12.9
三重県	37.6

【正答】
 $\frac{2}{3} m$

3(1)はわり算の意味が理解できているかどうかを問われています。これも、「全て」選ばなくてはいけません。「分けます。」という言葉だけで、わり算だと判断している場合、本来かけ算であるはずのウを選んでしまったり、わり算であるエを選ばなかったりするケースが見られます。4①の問題は、最も基本的な分数問題で、答えは2分の1mです。しかし、この問題の川崎小の子の正答率は62.9% (県の正答率は72.8%) に留まります。さらに、4②の問題になると、分数の意味の理解があいまいであると、2mのテープに惑わされて、6分の2と答えてしまいそうです。

～川崎小学校5年生の子どもたちに見られる傾向～

【5年生国語】

- △全般的に県の平均正答率を下回っている。
- △漢字（関心をもつ、きょうな機会）において県の平均正答率との差が大きい。
- △手紙の後付け（手紙の最後に付ける内容）の書き方を理解している。
- ▲文の中の主語と述語との関係をとらえる。
- ▲目的に応じて調べたことを整理する。
- ▲相手や目的に応じて筋道立てて話す。（条件に合わせて記述して答える。）
- ▲登場人物の行動をもとにして、場面の移り変わりをとらえたり、登場人物の気持ちの変化を想像しながら音読することにおいて、自分ならどう読むのかを、条件に合わせて記述すること。

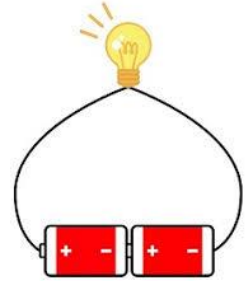


【5年生算数】

- 小数のわり算の意味、分数の意味については、県平均正答率を上回っている。
- △概ねすべての問題が県の正答率を下回っている。
- ▲長方形を組み合わせた図形の面積の求め方を、条件に合わせて説明（記述）する。
- △めもりを確認しながら棒グラフを正確に読み取る。

【5年生理科】

- △いずれの問題も県の平均正答率を下回っている。以前からの傾向が続いている。
- ▲方位磁針の適切な操作方法を身につけている。
- △水是水蒸気になって空気中に含まれていることを理解している。
- ▲空気鉄砲や注射器を使った実験で、空気は押し縮められるが、水は押し縮められないことがわかる。
- △乾電池のつなぎ方で学習する直列つなぎや並列つなぎの特徴を理解している。



【5年国語】



～児童が苦手としている▲の問題から～

- 声に出して読むときにくふうすることを書くこと。くふうすることとしては、例えば、声の大きさや高さ、読む速さなどがある。
- なぜそのように読むのかという理由を書くこと。理由には、あなたが想像したとのさまの気持ちを取り上げること。
- 四十字以上、八十字以内にまとめて書くこと。

（条件）

「もうよい。わしの負けじや。」を、あなたならどのように声に出して読みますか。次の条件に合わせて書きましょう。

【話し合いの様子②】

山田 一休さんが家来たちに、「とらを追いかけてください。出て来ないと思はれませんかからね。」と言ったところがおもしろいよね。

小川 わたしもそう思うわ。とのさまが言った無理なことに対して、一休さんがちえを働かせているところよね。とのさまはおこって言い返したけれど、一休さんに「それはおかしい。」と言われて、「ううむ。」とうなってしまっね。

高木 最後に、とのさまは、「もうよい。わしの負けじや。」と言ったけれど、どんな気持ちだったのかな。どんなふうにも読むといいかな。いろいろな読み方を考えてみよう。

（話し合いが続く）

7

二 山田さんたちは、「びょうぶのとらのお話」のおもしろさについて、一年生にどのように伝えたらよいか話し合っています。次の【話し合いの様子②】をよく読んで、あとの（問い）に答えましょう。

校内放送で、今日は 発明の日だと しようかいされたので わたしは エンジンの 本が 読みたくなった。

4

次の一と二の問いに答えましょう。

一 次の文の——部の主語に当たるものを——部アからエまでの中から一つ選びましょう。



【正答例】

大きな声で少し速めに強く読みます。その理由は、とのさまは一休さんの言った言葉に対してはらが立ったと思うからです。（56字）

【正答】

イ

小5国語7二の正答率

川崎小	5.9
三重県	29.0

小5国語4一の正答率

川崎小	22.1
三重県	36.8

国語4一の問題は、主語と述語の関係がとらえられるかという問題です。7二は、条件に合わせて、音読で工夫することやその理由を字数制限内で記述する問題です。物語文の場合、日頃から気持ちを想像しながら音読をしてるか、また、その音読の工夫を文で説明するという場面があるかどうか、見直す必要があります。

木下さんの学校の図書委員会では、みんなにたくさん本を読んでもらうためにどうしたらよいか話し合っています。そこで、クラスの人たちの読書の様子について調べ、次回の図書委員会で調べたことを報告することにしました。

別に配られた「問題用紙1」は、図書委員の木下さんが自分のクラスの人たちに行った「アンケート」と「アンケート結果」です。これらをよく読んで、あとの問いに答えましょう。

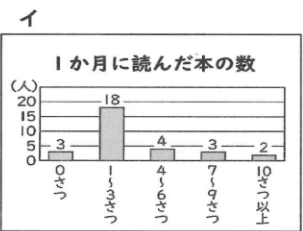
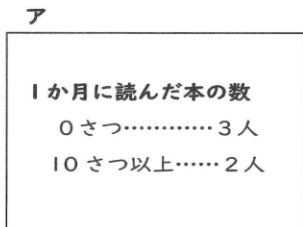
一 木下さんは図書委員の三人と、「アンケート結果」を見て話し合い、報告で示す資料を作りました。次は、そのときの「話し合いの一部」です。木下さんが作った資料として、最も適切なものを、あとのアからエまでの中から一つ選びましょう。

【話し合いの一部】

木下 質問1の結果を見ると、本を一さつも読まなかった人は三人しかいないね。
中井 でも、いちばん多い答えが一さつから三さつというのは、読んだ本の数が少ないと思うよ。

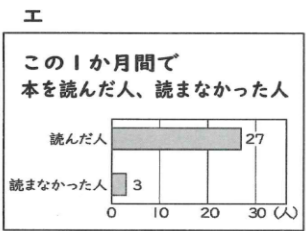
岩田 そうだね。四さつ以上になると、読んだ人が急に少なくなっているね。

小野 この結果を示す資料を作って、もつとみんなに本を読むようによびかけたいと報告したらどうか。



ウ

1か月に読んだ本の数
いちばん多かったのは
1~3さつ 18人
でした！



小5国語6一の正答率

川崎小	48.5
三重県	72.2

【正答】
イ

【アンケート】

読書についてのアンケート 5年1組

質問1 この1か月間で本を何さつ読みましたか。一つ○をつけてください。

① 0さつ ② 1~3さつ ③ 4~6さつ
④ 7~9さつ ⑤ 10さつ以上

質問2 あなたが読書をするきっかけは何ですか。最もあてはまるものに、一つ○をつけてください。

① 友だちに本をすすめられたこと
② 家族に本をすすめられたこと
③ 学校の図書室へ行ったこと
④ 地いきの図書館へ行ったこと

質問3 どんな種類の本が好きですか。一つ書いてください。

【アンケート結果】

質問1 (○をつけた人の数)

① 3人	② 18人	③ 4人	④ 3人	⑤ 2人
------	-------	------	------	------

質問2 (○をつけた人の数)

① 8人	② 2人	③ 17人	④ 3人
------	------	-------	------

質問3

物語	21人
科学の本	4人 (うちゅう 2, 動物 2)
社会の本	3人 (歴史 2, 世界の文化 1)
スポーツの本	1人
図かん	1人

(※クラス的人数=30人)

小5国語6二の正答率

川崎小	4.4
三重県	16.7

【正答】
学校の図書館へ行ったことが最も多く、十七人でした。二番目に多かったのは、友だちに本をすすめられたことの八人でした。(57字)



二 木下さんは、「アンケート結果」から分かることと、そこから思ったことを、図書委員会で報告しました。次は、木下さんの「報告内容」です。

当てはまる内容を、あとの条件に合わせて書きましょう。

【報告内容】

わたしは、クラスの人たちがどのように読書をしているかを知るために、アンケートを取って調べました。

まず、この一か月間で本を何さつ読んだかを聞きました。結果は、最も多かったのが、一から三さつの十八人で、次に多かったのは、四から六さつで四人でした。四さつ以上読んだ人は、九人でした。思っていたよりも読んでいる本の数が少なかったので、みんなに本をもつと読んでほしいと思いました。

次に読書のきっかけは何か聞きました。結果は、

このことから、みんなに本を読んでもらうために、図書室やクラスで、おすすめの本をしようかいるなどの取り組みをしていきたいと思いました。

最後に、どんな種類の本が好きかを聞きました。すると、物語が二十一人で最も多いという結果になりました。これはわたしの予想通りでした。

調べたことをおして、今までより多くの人に図書室に来て本を読んでもらえるように、わたしは、本のしよいかいの方法をくふうしたいと思いました。

あ

- 〈条件〉
- 質問2の結果から分かることを、数字を入れて書くこと。
 - 前後の内容につながるように書くこと。
 - 報告にふさわしい言葉づかいで書くこと。
 - 五十文字以上、六十文字以内にまとめて書くこと。

国語6一の問題は、「話し合いの一部」のやりとりから、その内容に合った資料を選ぶ問題です。6二の問題は、アンケートの質問2の結果を見て、それを条件に合う文に整えて、文中に挿入する問題です。アンケートの質問1の結果が問題文の中に書かれているので、それをお手本にしつつ、字数制限内に収まるように記述しなければなりません。

【5年算数】

11 けいたさんたちは、図1の形の面積を求めようとしています。方眼紙は1めもり1cmです。

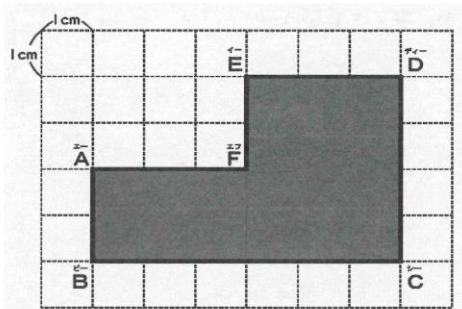
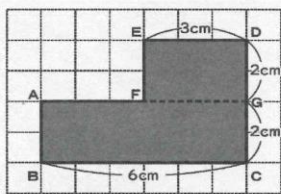


図1

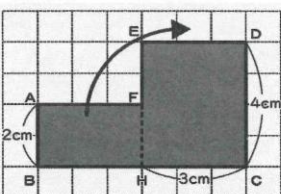
(1) けいたさんとゆうたさんは、図1の形の面積が何cm²になるかを考えています。



長方形EFGDと
長方形ABCGの2つの
長方形に分けて考えたよ。
 $2 \times 3 + 2 \times 6 = 18$
答え 18cm²



長方形ABHFを
長方形EHCDの上に
動かして、1つの長方形
AHCNにして考えたよ。
() $\times 3 = 18$
答え 18cm²



ゆうたさんの考えの () にあてはまる式を答えましょう。

小5算数11(1)	
の正答率	
川崎小	19.4
三重県	38.4

【正答】

2+4 または 4+2

5年生算数11(1)は、長方形を組み合わせた図形の面積の求め方を説明できるかという問題です。長方形を切り取って上の方にくっつけたときにできた1つの長方形の縦の長さを式で表すものです。

また、11(2)は、欠けている長方形の部分があると仮定して、そこから欠けた長方形分を引いて求める方法を説明するものです。算数用語を正しく使う必要があります。面積の問題においては、昨年度も同様の問題でつまずく子どもが多かったです。問題を読んで、その状況を式で表すことや、なぜその式になるかなど、考えの過程を明らかにしながら立式していく学習に力を入れる必要があります。引き続き、授業の中で、自分の考えを図や式で表すことや友だちが考えた式の意味を説明する活動などを大切にしていきます。

11

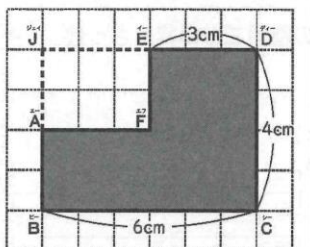
(2) あやかさんは、図1の形の面積について、けいたさんやゆうたさんとは別の求め方で考えました。



わたしは、ほかの求め方を考えました。

【あやかさんの求め方】

$4 \times 6 = 24$
 $2 \times 3 = 6$
 $24 - 6 = 18$
答え 18cm²



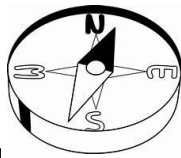
【あやかさんの求め方】の中の「 $24 - 6$ 」は、どのようなことを表していますか。「24」と「6」がどのような図形の面積を表しているのかがわかるようにして、けいたさんたちの考えと同じように、言葉と数、AからJまでの記号を使って書きましょう。

小5算数11(2)	
の正答率	
川崎小	6.0
三重県	29.9

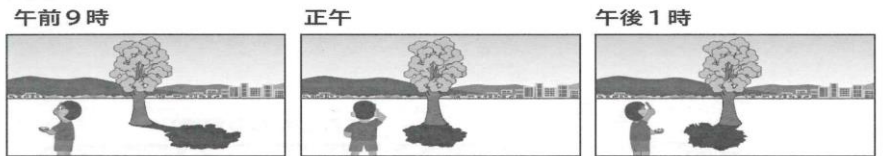
【正答】

24は、長方形JBCDの面積を表しています。6は、長方形JAFEの面積を表しています。24-6は、長方形JBCDの面積から長方形JAFEの面積を引いていることを表しています。

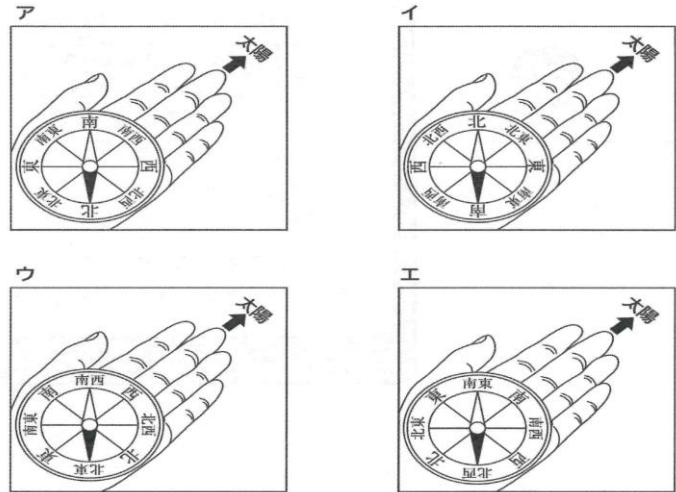
【5年理科】



2 三郎さんは、5月20日の1日の太陽の位置と木のかげの動きや長さを調べました。下の3まいの図はその時のようすです。



午後1時の太陽の方位を、正しく調べているのはどれですか。下のアからエまでのの中から1つ選びましょう。



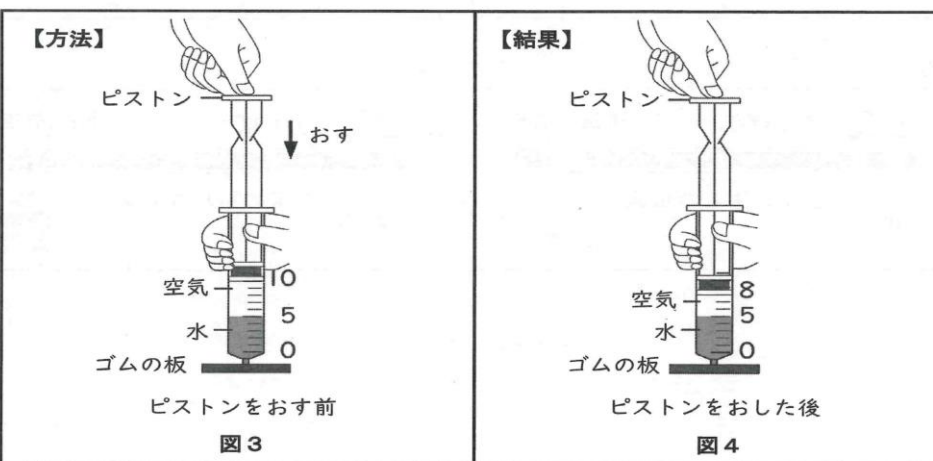
学習したことの定着を図るには、「なるほど」「そうか」「わかった」と、子どもたちに実感を伴った理解を促すことが大切です。そのためには、実際に様々な場所で方位磁針を使って自分で方位を調べるなど、体験活動を十分行うことが必要です。また、学んだことを生活の中で活用する経験を多く設け、学習したことが役に立つ経験を多く積ませることも大切です。

5 やすひろさんは、とじこめた空気や水のせいしつを調べていたとき、新たなぎ問をもちました。



空気と水を注しや器にとじこめてピストンをおすと、どうなるのかな。

そこで、やすひろさんは、図3のように、注しや器に空気と水をとじこめてピストンをおし、空気と水の体積について調べました。実験した結果は、図4のようになりました。



(5) 上のような【結果】になったわけを、とじこめた空気と水のせいしつをもとにして書きましょう。

小5理科	5 (5)
の正答率	
川崎小	14.1
三重県	41.3

【正答例】

空気の体積は小さくなるが、水の体積は変わらないから。空気はおしちぢめることができるが、水はおしちぢめることができないから。

5年生理科5(5)の問題は、閉じ込められた空気と水の性質を、空気と水を注射器に入れておし縮めたときの体積変化に適用し、その理由を説明する問題です。注射器の目盛りから、ピストンを押して縮んでいるのは空気の部分だけということを見つけるとともに、空気と水の両方の性質に触れてわけを書くところに難しさがあります。



R5年度のみエスタディ・チェックでは、生活習慣や学習環境等に関することを問う「生活のアンケート」の調査もありました。内容は、6年生の全国学力・学習状況調査の児童質問紙に準じたものとなっています。特に顕著な傾向があるものを表にしました。数値は、「当てはまる」または「どちらかと言えば当てはまる」を選んだ子どもたちの割合です。

(表の一の部分はデータがないもの) % 県平均を上回ったもの % 県平均を下回ったもの

↑ 経年で上がっているもの(5ポイント以上)

↓ 経年で下がっているもの(5ポイント以上)

4年生「生活のアンケート」から...

【生活習慣・学習習慣に関すること】

毎日同じくらいの時刻に起きる。	R5年度 4年生	R4年度 4年生
川崎小	86.4%	75.7%
三重県	86.3%	86.4%

毎日同じくらいの時刻に寝る。	R5年度 4年生	R4年度 4年生
川崎小	72.8%	63.5%
三重県	76.2%	76.5%

普段(月曜日～金曜日)に1日当たりのゲームの時間が2時間以上。	R5年度 4年生	R4年度 4年生
川崎小	48.5%	64.9%
三重県	49.7%	45.7%

普段(月曜日～金曜日)に1日当たり1時間以上、勉強をする。(塾や家庭教師も含む)	R5年度 4年生	R4年度 4年生
川崎小	45.5%	37.9%
三重県	43.7%	46.8%

家で自分で計画を立てて勉強をしている。	R5年度 4年生	R4年度 4年生
川崎小	63.6%	66.2%
三重県	72.0%	73.7%

普段(月曜日～金曜日)1日あたり30分以上、読書をする。	R5年度 4年生	R4年度 4年生
川崎小	36.3%	35.2%
三重県	37.7%	42.9%

【学校生活、授業等の教育活動に関すること】

学校へ行くのは楽しい。	R5年度 4年生	R4年度 4年生
川崎小	78.7%	78.3%
三重県	84.8%	85.7%

学校が楽しいのが何よりなのですが、ちょっと県平均より低め。改めて、みんなで「居心地の良い学年・学級づくり」を目指しましょう。



算数の勉強は好き。	R5年度 4年生	R4年度 4年生
川崎小	72.7%	63.5%
三重県	71.8%	87.0%

算数の授業内容はよくわかる。	R5年度 4年生	R4年度 4年生
川崎小	81.8%	70.5%
三重県	86.4%	73.9%

【豊かな人間性(自己有用感 地域への関心等)に関すること】

将来の夢や目標をもっている。	R5年度 4年生	R4年度 4年生
川崎小	93.9%	74.3%
三重県	88.2%	87.7%

自分には、よいところがあると思う。	R5年度 4年生	R4年度 4年生
川崎小	72.8%	67.6%
三重県	81.3%	81.8%

難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している。	R5年度 4年生	R4年度 4年生
川崎小	78.8%	87.8%
三重県	83.4%	83.2%

今住んでいる地域の行事に参加している。	R5年度 4年生	R4年度 4年生
川崎小	72.7%	47.3%
三重県	66.8%	64.5%

地域や社会をよくするために何をすべきか考える。	R5年度 4年生	R4年度 4年生
川崎小	53.0%	62.1%
三重県	66.4%	67.3%

課題を見つけ、それを解決するという学習活動を大切に授業づくりを今後も継続していきます。そのためにも、話し合いの場で、互いの意見を出し合い、練り上げる場面を意図的に設定する必要があります。

前の学年までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた。	R5年度 4年生	R4年度 4年生
川崎小	72.7%	73.0%
三重県	81.6%	82.3%

算数や国語が好きなのは県並みまで増加。でも、算数の授業内容がよくわかる子が減少。わかりやすい授業づくりを日々提供していく必要があります。

国語の勉強は好き。	R5年度 4年生	R4年度 4年生
川崎小	68.2%	56.7%
三重県	66.9%	67.5%

国語の授業内容はよくわかる。	R5年度 4年生	R4年度 4年生
川崎小	78.8%	78.4%
三重県	86.6%	87.7%

将来の夢と目標をもっている子どもが多いことに感心。しかし、自己肯定感に関しては、県平均より低いです。自己肯定感是最も大切な気持ちと考えます。個々の子どもを認める場づくりが必要です。

「挑戦する心」は、県平均に及ばず。今年の4年生は、慎重な子が多いのかなあ。

地域行事への参加は急増。コロナ禍でも行事再開が進んだからでしょうか。でも、地域や社会をよくするために考えることについては、県と比べて低めです。地域や社会に目を向けて学習する機会を大切にしていきたいと思います。



5年生「生活のアンケート」から・・・

% 県平均を上回ったもの

% 県平均を下回ったもの

↑ 経年で上がっているもの(5ポイント以上)

↓ 経年で下がっているもの(5ポイント以上)

【生活習慣・学習習慣に関すること】

毎日同じくらいの時刻に起きる。	R5年度 5年生	R4年度 5年生
川崎小	83.6%	96.5%
三重県	89.5%	89.5%

毎日同じくらいの時刻に寝る。	R5年度 5年生	R4年度 5年生
川崎小	76.1%	83.6%
三重県	81.4%	79.5%

普段(月曜日～金曜日)に1日当たりのゲームの時間が2時間以上。	R5年度 5年生	R4年度 5年生
川崎小	51.2%	62.3%
三重県	48.0%	51.3%

普段(月曜日～金曜日)に1日当たり1時間以上、勉強をする。(塾や家庭教師も含む)	R5年度 5年生	R4年度 5年生
川崎小	37.3%	42.3%
三重県	46.9%	50.3%

家で自分で計画を立てて勉強をしている。	R5年度 5年生	R4年度 5年生
川崎小	68.7%	69.4%
三重県	69.5%	71.4%

普段(月曜日～金曜日)1日あたり30分以上、読書をする。	R5年度 5年生	R4年度 5年生
川崎小	37.3%	36.4%
三重県	36.1%	40.2%

【学校生活、授業等の教育活動に関すること】

学校へ行くのは楽しい。	R5年度 5年生	R4年度 5年生
川崎小	95.5%	90.6%
三重県	84.0%	84.4%

算数の勉強は好き。	R5年度 5年生	R4年度 5年生
川崎小	67.2%	71.8%
三重県	67.4%	86.7%

算数の授業内容はよくわかる。	R4年度 4年生	R4年度 5年生
川崎小	79.1%	83.6%
三重県	87.3%	67.8%

今年度の5年生は、早寝早起きに関する結果は、県に及ばず。しかし、昨年度4年生時は、毎日同じくらいの時刻に起きるが、75.7%、寝るが63.5%だったので、1年間ですいぶん改善したのではないのでしょうか。

ゲームの時間も、県と比べて、やや長いですが、昨年度4年生時は64.9%だったので、少しずつ改善している傾向がうかがえます。反対に、家庭学習の時間は、4年生時も含まれないです。

今後も自主学習の奨励を続けます。「家庭学習の手引き」にありますように、宿題30分+自主学習(学年×10分)を目安に、家庭での声かけをお願いします。

読書の時間は県平均並み。川崎小の目標：1年間一人100冊が達成できますように。

算数の勉強が好きな子は、4年生時同様6割台です。ただし、授業内容がよくわかるについては、4年生時90.5%もあったのに、今回は低いです。わかりやすい授業に加え、算数の面白さや不思議さに注目して授業づくりを考える必要があります。

【豊かな人間性(自己有用感 地域への関心等)に関すること】

将来の夢や目標をもっている。	R5年度 5年生	R4年度 5年生
川崎小	86.5%	88.2%
三重県	86.3%	86.3%

自分には、よいところがあると思う。	R5年度 5年生	R4年度 5年生
川崎小	82.1%	84.7%
三重県	79.5%	78.2%

難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦している。	R5年度 5年生	R4年度 5年生
川崎小	83.6%	91.7%
三重県	79.8%	79.1%

今住んでいる地域の行事に参加している。	R5年度 5年生	R4年度 5年生
川崎小	56.7%	62.3%
三重県	65.0%	63.6%

地域や社会をよくするために何をすべきか考える。	R5年度 5年生	R4年度 5年生
川崎小	65.7%	62.3%
三重県	65.8%	66.1%

県平均に及ばず、昨年の5年生に比べても低い傾向が見られます。主体的に課題を見つけ、それを解決するという学習活動を今後も大切にしていく必要があります。

前の学年までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた。	R5年度 5年生	R4年度 5年生
川崎小	76.2%	82.3%
三重県	79.2%	79.6%

国語の勉強は好き。	R5年度 5年生	R4年度 5年生
川崎小	70.2%	70.6%
三重県	61.2%	61.9%

国語の授業内容はよくわかる。	R4年度 4年生	R4年度 5年生
川崎小	80.6%	85.8%
三重県	87.8%	88.1%

将来の夢と目標をもつことについては、県平均並みです。4年生時は74.3%だったので、増加傾向がうかがえます。また、自己肯定感も4年生時は67.6%と低めてでしたが、ずいぶんアップしました。

「挑戦する心」は、県平均を少し上回りました。

地域行事への参加が県平均より低めてした。4年生時は47.3%だったので、やや改善傾向にはあります。これからも、地域や社会に目を向けて学習する機会を大切にしていきます。



4年生時は、国語の勉強が好きな子は56.7%だったのですが、今回は70.2%で、国語の勉強が好きな子が増えたようです。一方、授業内容がわかるという数値は県平均に及ばず。子どもたちが「わかった」と実感できる授業づくりを日々目指す必要があります。



6年生「全国学力・学習状況調査」と、 4・5年生「みえスタディ・チェック」の結果を受けて

今回の学力に関するデータは、その学年だけに限らず全ての学年における指導の在り方に結びつくものです。したがって、結果の分析をもとに、川崎小学校における課題と、その克服に向けてこれからの指導で特に取り組んでいくことを全ての教員間で共有し、1～6年生の日々の授業等において意識的に実践を進めてまいります。

これからの指導で特に取り組んでいくこと



様々な教科学習等の場面で・・・



- ・落ち着いて、意欲的に学習に臨む雰囲気づくり(学習規律、ほどよい緊張感、前向きに学習に向かえるような導入や投げかけ等の工夫、「楽しい」「わかった」と子どもたちが実感できる授業・・・)
- ・対話を重視した日々の学習活動
- ・各学年で確実に押さえるべき指導事項や目標を確認し、日々の授業での確かな習得を目指す。
(まずは、個別指導や補充学習等に頼らずとも子どもたちに力をつけさせるような
日々の効果的な授業づくり)
- ・そのうえでの、家庭学習の提供や、個別指導や補充学習の時間の確保、復習の時間や既習事項を確認する時間、繰り返し練習する時間等の設定を通して、確実に基礎基本を定着させる。
ぐんぐんタイムや学期末補充学習の設定、e-ライブラリー等の活用、
家庭学習の手引きの再確認、1人1台端末の持ち帰り・・・
- ・教科を問わず、文章に触れる機会を増やす。(文章問題、読書・・・)
とくに、長文を読むことに慣れさせる。(学年に応じた読み物を読む。本の紹介・・・)
- ・状況や事実、内容、理由、自分の考え等を説明する(話す、書く)場面を多くつくる。
その際に、読み取りのコツ、説明の仕方、文の作り方など、具体的なやり方・方法を教え、
それを使って、子どもたちそれぞれが自力でできるようになるまで、見届ける。
- ・複数の条件のもとで、文章にまとめる機会を多く作る。
- ・問題や課題などで、粘り強く、正しい答えを見い出そうと考え直すことを習慣化する。
- ・学んだことと生活を結び付ける場面の設定(実際の体験や実際の操作活動等)
- ・単なる知識や技能だけでなく、学習内容がもつ本質的な意味や面白さを理解させることを怠らない。



【ご家庭で】

学びの土台作りのために、基本的な生活習慣や学習習慣の定着に向け、以下の取組をお願いします。

～かめやまお茶の間10選(実践)から～

1. 家族でつくろうハッピーリズム・しっかり食べてつくろうカラダ
引き続き、「早寝、早起き、朝ごはん」で規則正しい生活リズムを身に付けさせましょう。
2. つくって守ろう家族のきまり
自分で計画を立てて家庭学習(宿題、自主学習、予習、復習)をしましょう。テレビ、DVDの視聴時間や携帯電話、スマホ、パソコン等の使い方について、家庭で約束を決めて守りましょう。特に、ゲームの時間に要注意!
3. 夢への一歩 家族の力
子どもは話したがりがり屋です。お子さんの気持ちや考えをありのまま受け入れ、共感して聞いてあげてください。子どもの自己肯定感を育み、自信や意欲につながります。

